

環境省・オフセット・クレジット（J-VER）制度認証委員会
（事務局：気候変動対策認証センター）御中

平成24年1月16日

検証結果の概要報告書

検証結果の概要について以下の通り報告いたします。

対象プロジェクト名		
日本の自然遺産—京丹波の名水と熊野の森を守る CO2 森林吸収プロジェクト		
GHG 検証機関		
当該プロジェクトにおける検証を行うにあたり、当該プロジェクトに関して一切の利害関係がないことを宣誓します。		
機関名	SGS ジャパン株式会社	
担当部署名	認証サービス事業部 森林認証部	
責任者名	今泉 俊一	
責任者 E-mail	shunichi-imaizumi@sgs.com	
責任者電話番号	045-330-5047	
審査員名 ⁱ	今泉 俊一/主任検証員（チームリーダー） 佐々木 聡子/主任検証員（レビューアー）	
機関要件への合致	暫定的な妥当性確認・検証機関としての要件を満たし、暫定妥当性確認・検証機関としての登録を受けています。	
検証報告書発行日	2012 年 1 月 16 日	
検証結果		
適用妥当性確認・検証ガイドライン	オフセット・クレジット（J-VER）制度 妥当性確認・検証ガイドラインVer.2.0	
検証期間	2011年11月25日～2012年1月16日	
現地審査	期間	2011年11月29日～12月1日



		<p>グリーンプラス株式会社の「日本の自然遺産—京丹波の名水と熊野の森を守る CO2 森林吸収プロジェクト」に対し、提出されたモニタリング報告書 ver1.2 における 2009 年 7 月 1 日～2011 年 3 月 31 日の期間（1 年 9 カ月間）の吸収分申請 追加報告書-（以下モニタリング報告書とする）及び付属文書（吸収量計算シート等）に示されたプロジェクトについて、合意された検証の範囲、目的及び基準に基づき、合理的保証を付与する水準にて検証を実施した。その結果、モニタリング報告書及び付属文書に示されたプロジェクトは、オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則、モニタリング方法ガイドライン、森林吸収源ポジティブリスト・方法論（R001・JRAM001）に依拠して作成されており、全ての重要な点に関し、適正であると判断した。</p> <p>最終版のモニタリング報告書は、修正されたデータに基づき算定されており、可能性のある誤りと未修正の誤りはそれぞれ 0%であることから、重要性の判断基準である 5%未満は、担保されていると判断した。</p> <p>以上より、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>				
排出削減・ 吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012
	t-CO2	—	140	245	—	—
検証結果の要約		<p>グリーンプラス株式会社の「日本の自然遺産—京丹波の名水と熊野の森を守る CO2 森林吸収プロジェクト」に対し、モニタリング報告書中の 2009 年 7 月 1 日～2011 年 3 月 31 日までの期間の吸収量情報について、合意された検証範囲、目的及び基準に基づき、合理的保証を付与する水準にて検証を実施した。その結果、モニタリング報告書に記載された吸収量情報は、オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則、環境省 モニタリング方法ガイドライン（森林管理プロジェクト用） Ver. 3.0（当プロジェクトの妥当性確認時に有効であったガイドラインを使用。）、森林吸収源ポジティブリスト・方法論（R001・JRAM001）に基づいて作成されており、全ての重要な点に関し、適正であると認める。</p> <p>2009 年 7 月 1 日～2011 年 3 月 31 日の期間（1 年 9 カ月間）の当プロジェクトの吸収量総計は、386t-CO2 であることを確認した。</p> <p>本検証意見は、別添のモニタリング報告書に基づくものとして解釈されなければならない。</p>				